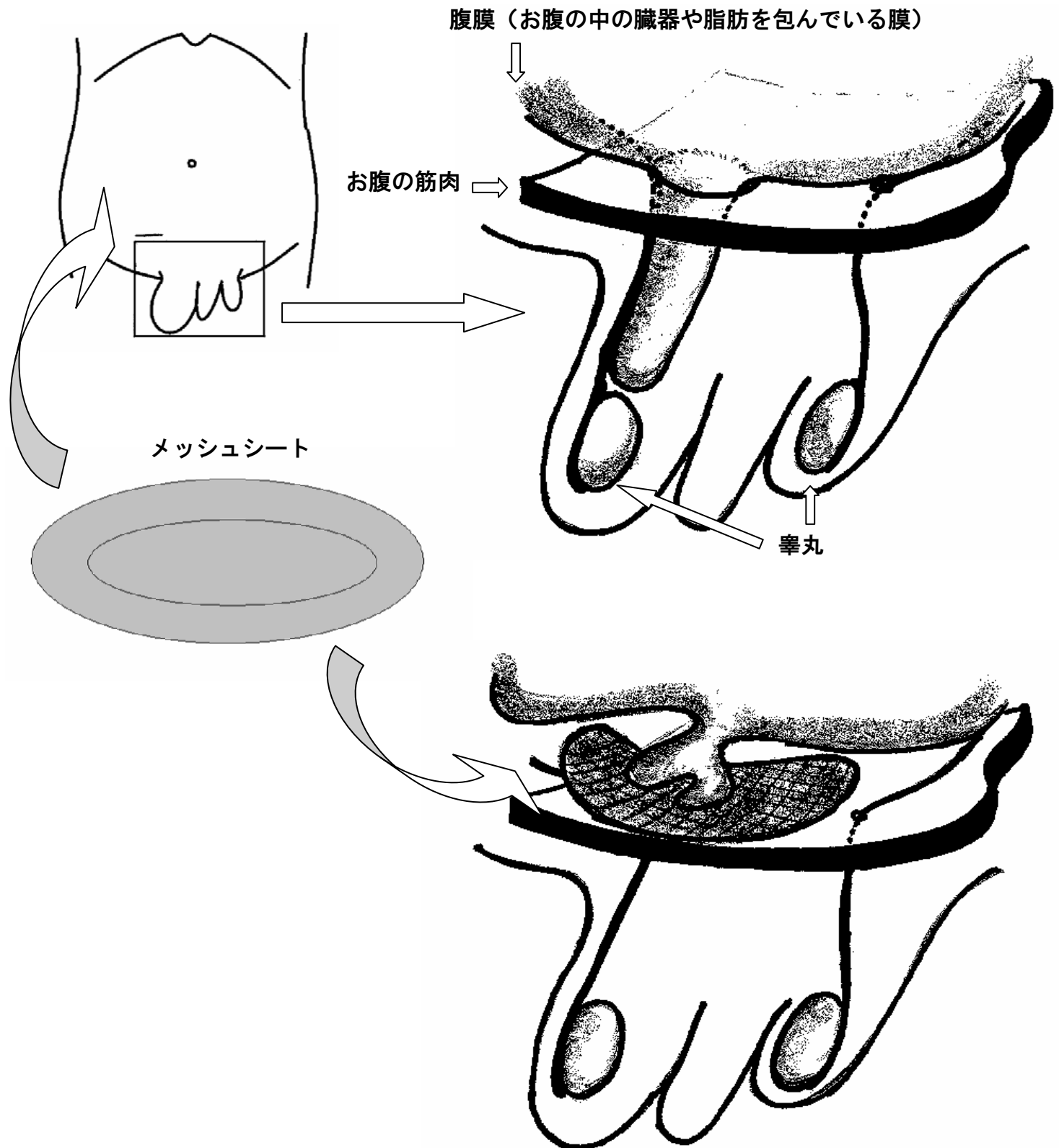


ソケイヘルニア（俗にいう“脱腸”）～説明書兼同意書～

手術、麻酔方法

ヘルニア修復術・・・全身麻酔で行います。

1. 袋を切除し、出てくる穴を縫い縮める方法・・・従来法
2. メッシュで穴をふさぐ方法・・・最近の方法
3. 腹腔鏡下手術という選択肢



手術時間： 片側で約1時間

手術の危険因子

高齢, 心臓病(不整脈), 肺機能, 糖尿病, 腎臓病, 高血圧, 特殊な薬物の常用, 肥満

合併症（手術に伴う危険性）

1. 出血 残念ながら出血のない手術はありません。

術中… 十分な止血＋輸血

術後… 自然止血→輸血→再手術

2. 肺梗塞・深部静脈血栓症

血の塊が重要な血管をつめてしまう病気です。発症してくる原因として次のような流れが考えられています。
同じ姿勢で長時間寝ていることで、足の静脈がよどむ。

→血が固まる。

→足の血管がつまる、肺の血管がつまる。

（長時間飛行機に乗っていると起こる事がある「エコノミークラス症候群」と同じ原理です）

術中、術直後は血栓（血の固まり）予防のストッキングを脚に着用していただき、可能な限り血栓ができることを予防します。また、早期離床（手術後の早い時期から体を動かしてもらうこと）によっても予防します。それでも発症してくる可能性はあるため、発症したらなるべく早期に治療を行うようにします。

3. 創感染

手術創に細菌がついて傷が膿むことがあります。

入院が長引くことはありませんが、通院が長くなる事があります。

基本的にはご自宅で良く化膿した傷口を、直接シャワーなどで洗ってもらうことで改善していきます。

4. メッシュの感染

強力に抗菌剤を使用する必要があるため、入院もしくは連日の通院が必要になることがほとんどです。抗菌剤が無効、感染が長く続く場合にはメッシュを除去する手術が必要となります。

5. 神経障害

太ももの内側に行く神経が傷つくことにより発症します。

ヘルニアの袋のすぐ近くをこの神経が通っていて、手術中は傷をつけないよう十分注意しながら手術をするのですが、非常に細いため確認が困難な場合があります。このような時に神経を傷つけてしまうことがあります。

しびれや痛み、違和感、感覚麻痺などの症状がでますが、時間とともに改善していくことがほとんどで、多くは半年～1年の間に自然に良くなっていきます。

6. 陰嚢の腫れ、手術した部分の腫れ

手術時の出血、浸出液が、ヘルニアを取り除きぼっかりと空いた空間に溜まることで生じます。ちょうどヘルニアで腫れてくる場所と同じなので、「再発した」と間違われる方もいらっしゃいます。ヘルニアは、寝たり、手で押ししたりすればこの膨らみが平らになるのですが、術後の腫れは常に膨れているという違いがあります。腫れること以外の症状はないことが多いのですが、違和感や痛み、熱感を伴うこともあります。

通常1ヶ月ほどで自然に回復していきませんが、痛みが強い場合には痛み止めが必要な事もあります。

溜まっている液体が多い場合には、注射針を刺して液体を抜くこともあります。

いずれにしても外来で経過を見ていけることがほとんどです。

7. 再発

報告によりばらつきがありますが、1～5%程度といわれています。

前回手術が不完全だった場合もありますが、別の穴から出てくることも多いようです。

また、メッシュに不備があったなどの、手術手技とは直接関係のないものもあります。

基本的には再手術が必要となります。

入院から退院までの流れ

前日21時以降、食べ物は取らないでください。水分（お茶も含めて）は取っていただいて結構です。

当日朝は、起床直後であればコップ一杯程度の水分は取っていただいて結構ですが、それ以降は食事はもちろん水分も取らないでください。内服薬はこの際に一緒に飲んでください（常用内服薬がある場合は、事前に担当医師に申し出てください。クスリの種類によっては、内服を中止していただく必要があります）。

入院は_____時にさせていただきます。術前の準備をし、_____時頃に手術室に入室します。

入室時間はその日の手術室の状況で変わってきますので、ご了承ください。

手術が終了し帰室するのは2～3時間後くらいになります。

帰室後はある程度意識がはっきりしていれば水分を取ってくださって結構です。まずは少量の水分を取り、むせ

るなどの問題がなければ自由に水分を取ってください。手術終了時間に従って夕食もしくは翌日の朝食を用意いたします。無理がない程度に食事を取っていただいて結構です。

帰室し、麻酔がある程度覚めたら、まず体を起こしていただきベッドに座ってみてください。ふらつきなどがなければベッドサイドに立ち、さらには歩行を開始してください。最初の歩行では看護師、もしくは付き添いの方に必ず介助してもらうようにし、一人で行わないようにしてください。歩行が問題なくできるようであれば、院内であればどんどん歩いていただいて結構です。

ただし、異常を感じるようであれば、すぐに医師・看護師まで連絡下さい。

翌朝、医師の診察を受け問題なければ退院の許可がでます。

退院後について

退院後は、日常生活は通常通り行っていただいて結構です。仕事もデスクワークであれば退院翌日から可能です。

傷は退院時の状態のままにさせていただき、消毒もしないで構いません。もちろん入浴もそのまま可能です。

ただし、傷口が熱を持ってきたり、赤く腫れてきたり、強い痛みを持つようなことがあれば、連絡をいただくか、外来を受診してください（傷を保護しているフィルムから赤黒い液体のようなものが透けて見えることがありますが、これは血液の成分で傷をきれいに治すのに有効な成分です。前述のような症状がなければ、特に心配はいりません）

また、1週間は激しい運動、重い荷物を多く持つなど、腹圧のかかる動作は控えてください。

通常我慢できないような痛みは生じませんが、もし痛みを感じるようであれば、退院時に出された痛み止めを遠慮せずに使用してください。それでも取れないような強い痛みがある場合は、何か異常が生じている可能性がありますから、ご連絡をいただくか、外来受診をしてください。

術後1週間位で術後の体の状態のチェック、抜糸などを行いますので、外来を受診していただきます。この時点で特に異常がなければ、診察は終了となりますので、何か異常がなければ通院は結構です。

手術予定日 _____年 _____月 _____日

以上の内容について、患者様ご本人がご理解いただいた上でご承諾をお願いします。手術の実施を拒否されましても、本院における診療上、不利益が生じることはありません。ご不明な点は、いつでも担当医にご質問ください。

患者様 署名 _____ 年 月 日

担当医 署名 _____ 年 月 日

なお、何らかの理由で患者様本人がご署名することが不可能な場合は、代理の方が署名していただいても結構です。

目次へ